

## 秀賞

### 伝承していきたいこと

宮城県仙台市立蒲町中学校

1年 秋山 二音

私の夢は、国語の先生になることです。国語の先生になって古文のおもしろさを伝えることが自分の大きな夢です。

皆さんは『万葉集』を読んだことがありますか？ 私は小学校1年生の時に万葉集に出会いました。ちょうど時代が平成から令和に移るころでした。母が子ども向けの万葉集の本を買ってくれたのです。元々本が大好きだった私はすぐにその本を開いてみました。そこには、衝撃の言葉が書いてありました。「万葉集ができた時代、まだひらがなもカタカナもありませんでした。声に出して詠んだものが、のちに文字として、残されたのです。」

え!! 言っただけの言葉が人から人に伝わって現代まで伝承されているのかと、私はびっくりしました。私は夢中でその本を読みました。難しい言葉や言いまわしが、たくさんあって最初はとても読みにくかったけれど毎日毎日読んでみると、おもしろいことに気が付きました。それは時代は変わっても、人が感じることは一緒だということです。例えば桜を見て美しいと感じる心、子どもを想う母の心、いつの時代も人が心にぐっとくることは同じなのです。特にそう感じる歌があります。

岩代の 浜松が枝を 引き結び  
ま幸くあらば またかえりみむ

有間皇子

これは松の枝を結びあわせて幸いを祈る願掛けの歌です。私の祖母は私の大事な時には必ず神社へ行き護摩木という木に願い事を書いてきてくれます。今の私たちと約 1350 年前の人々が人のことを想い、同じように何かに願いを託していたのだから不思議です。

そしてもう一つ、現代の日本人にエールを送っているように感じる歌があります。

この世にし 楽しくあらば  
来む生には 虫に鳥にも われはなりなむ

大伴旅人

これは今が楽しければ、来世は虫でも鳥でもいいというなんとも気持ちが明

るくなる歌です。朝のニュースの中で、明るい気持ちにさせてくれるニュースはいくつあるでしょうか。私たちが将来を不安に思うニュースが流れる中で私たちが忘れてはならないことは「今を楽しく生きる」ということだとこの歌は教えてくれています。

このように大昔の人々が口に出した言葉が誰かの耳にとまり、それは名もなき人でも天皇でも関係なく、この歌はすばらしいから伝えようとした人々によって時代を超えて文字になり、書物となりました。いつの時代も日本の四季の美しさや日本人の繊細な心に寄り添ってきた万葉集をはじめとする古文は、日本の宝の一つと言えるでしょう。

私も将来国語の先生になり、その伝承をしていく役割を担いたいと思っています。そのために中学1年生の私が今できることはなんでしょう。まずは勉強です。毎日の課題を一生懸命取り組むことです。そしてもっと古き日本について勉強することです。私の好きな言葉に温故知新という言葉があります。新しいことを知るには過去のことから学ぶということです。つまりこれからの時代を生きる私たちにとって新しいことを始めるには、まず過去のことをしっかり学ぶ、学ぶだけではなく生かす。これが一番大切だと私は考えます。あとはたくさんの人とコミュニケーションをとることです。家族、友人、先生、いろいろな人に出会い、自分という人間を知ってもらうことで自分を深めたいです。そして自分が先生になれたとき、自分にしかできない表現で古文というものの魅力を十分に伝えていきたいと思います。

最後に今の自分に送る歌を一つ。

葦原の 瑞穂の国は 神ながら  
言挙せぬ国 然れども 言挙ぞ我がする  
言幸く ま幸くませと つつみなく  
幸くいまさば 荒磯波  
ありても見むと 百重波 千重波しき  
言挙す我は 言挙す我は

柿本人麻呂

歌の中に4回も出てくる言挙げとは「言葉にする」「声に出す」という意味です。つまり願いは口にしないほうが良いとされているがうれしいこと、現実になってほしいことはあえて言葉にしようという歌です。だから私は今日もあえて口に出します。絶対、先生になるぞ!!